

国際関連情報 Report from IASB

‘Accounting for Dynamic Risk Management — a Portfolio Revaluation Approach to Macro Hedging’ —アウトリーチ活動を精力的に展開

ASBJ 専門研究員 やました ゆうじ
IASB 客員研究員 山下 裕司

Accounting for Dynamic Risk Management につきましては、4月17日に討議資料(以下「DP」(Discussion Paper)という。)を公表して以来、精力的にアウトリーチ活動を展開しています。

DP 公表直後は、コメント期間が6か月と長めに設定されていることもあり、しばらくはゆっくりできるかなと思っていたのですが、こうした期待はいい意味(?)で裏切られました。

まず、DP に対する関係者の反響が予想を遙かに超えていました。DP で論じられている各トピックは、関係者の方々にとって全く初めてというものではなく、いずれもこれまでのボード会議で一度は議論されてきたものです。ただ、これまで断片的に議論されてきた数多くのトピックが1つの文書の中に有機的に結合され、テーマの全体像がDP というかたちで纏められたことは、非常に大きな意味があったのだと思います。

お蔭様で、DP 公表直後からアウトリーチ会議の依頼がひっきりなしに入り、商売繁盛の状況です。対話の形式も、出張を含む対面での会議、ビデオ会議、電話会議と様々です。参加者も、銀行を含む金融機関、ユーザー、監査法人、銀行・証券監督当局など、多様性に富んでいます。地域的にみても、欧州、アジア・オセ

アニア、北米・南米、アフリカとまさに世界中の方々とは対話することができ、IFRS が会計基準のグローバル・スタンダードであることを強く実感します。

この一方で、課題もあります。一例を述べると、ユーザーの方々へのご説明と、銀行など作成者の方々へのご説明では、使用する資料も含め、かなり違うアプローチが必要であることが分かってきたという点です。例えば多くのユーザーの方々にとっては、本プロジェクトの起点である「ダイナミックなリスク管理の下では、金融商品の『個々の性質』あるいは『1:1の関係』に着目した会計基準は、上手くワークしない」という問題点自体に、さほど馴染みがありません。このため、「問題が存在すること自体に気がついていない」ケースが見受けられます。

このため、スタッフとしては、関係者の属性や理解度に合わせて、様々なバージョンの説明資料をご用意し、説明内容にも濃淡をつけることによって、属性・地域・経験にかかわらず関係者皆様にとって有益なアウトリーチとなるよう心がけています。こうした地道な活動が、質の高いコメントレーターや、ひいてはバランスのとれた立派な会計基準の開発につながるよう、これからも努力して参る所存です。